

学習の目標		使用する主な教材					
1 化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 2 化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を深く系統的に理解させる。 3 無機物質、有機化合物、高分子化合物の性質や反応を探究し、その特徴が理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。		・教科書『改訂版化学』 数研出版 ・『化学実験ノート』 愛媛県高等学校教育研究会理科部会化学部門					
期	月	学習内容	学習の具体的な内容とねらい	主な評価の観点			
				①	②	③	④
一 学 期	4	第4編 有機化合物 1章 有機化合物の分類と分析 2章 脂肪族炭化水素	有機化合物の特徴について観察、実験を行うとともに、それらを日常生活と関連付けて意欲的に探究しようとする	◎			○
	5	3章 アルコールと関連化合物	・炭化水素の性質や反応性が、炭素鎖の構造に特徴付けられることを見だし、構造異性体などを論理的に説明できる。	○	◎		
			・炭化水素の分類とその反応性との関係、構造異性体の関係等を理解し、知識を身に付けている。	○	◎		
	6	4章 芳香族化合物	・酸素を含む有機化合物の性質や反応性が、その官能基に特徴付けられることを見だし、論理的に考察できる。	○			◎
			・酸素を含む有機化合物に関する観察、実験の過程や結果から自らの考えを導き出し、的確に表現できる。		◎		
	7		・芳香族化合物の個々の官能基の性質に対する知識を身に付けている。	○	◎		
			・酸素及び窒素を含む代表的な官能基の反応性と有機化合物相互の関連について、観察、実験などを行い考察できる。				◎
		・有機化合物と日常生活や社会との関連について関心を持ち、人間生活との関わりについて意欲的に探究しようとする。	◎				
		・油脂やセッケンなどの性質や反応性について、日常生活に関連付けて理解している。				◎	
二 学 期	8	第5編 高分子化合物 1章 高分子化合物の性質	・高分子化合物の特徴について観察等を行うとともに、それらを日常生活と関連付けて意欲的に探究しようとする。	○	◎		
	9	2章 天然高分子化合物	・天然高分子化合物の性質や反応性について、糖類、アミノ酸とタンパク質、酵素、核酸等を通して理解し、天然高分子化合物相互の相違と関連性についての知識を身に付けている。			◎	
			・天然高分子化合物の性質や反応性の観察、実験の過程や結果から自らの考えを導き出し、的確に表現できる。	○	◎		
	10	3章 合成高分子化合物	・合成高分子化合物の構造・性質・反応性について、単量体の官能基のはたらきとの関連性を見だし、論理的に考察できる。				◎
			・合成高分子化合物の合成反応や性質・反応性について、合成繊維、プラスチック、ゴム等の用途別の代表的な合成高分子化合物について理解し、相互の相違と関連性について知識を身に付けている。	○	◎		
11		・高分子化合物と日常生活や社会との関連について関心を持ち、人間生活との関わりについて意欲的に探究しようとする。	○	◎			
12							

三 学 期	1	課題研究	・化学についての応用的、発展的な課題を設定し、観察、実験などを通して研究を行い、化学的に探究する方法や問題解決の能力を身に付ける。						◎
	2								
	3								
評価の 方法	<p>①「関心・意欲・態度」：科学について関心を持ち、意欲的に探究しようとする。</p> <p>②「思考・判断・表現」：科学的な現象について考察し、導き出した考えを表現している。</p> <p>③「観察・実験の技能」：観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理している。</p> <p>④「知識・理解」：科学的な現象について理解し、知識を身に付けている。</p> <p>以上4つの観点を考慮しながら、成績は定期考査の得点に平常点（学習態度、課題、小テスト、ノート等）を加味して100点満点で算出する。学年末の成績は、各学期の成績をもとに算出する。</p>								
備考									